



SOIKEN

株式会社 総医研ホールディングス

BUSINESS REPORT

第21期 中間報告書

平成26年7月1日から平成26年12月31日まで

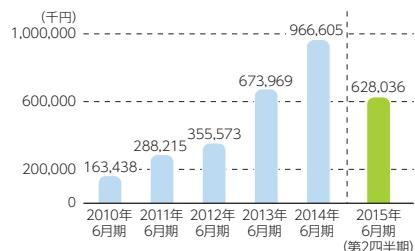


広がるイミダペプチド



現代社会の
疲労への
有用性に期待!

○健康補助食品事業の売上高推移



健康補助食品事業を行う日本予防医薬株式会社は、疲労プロジェクトから生まれた「イミダペプチド」を販売しています。「イミダペプチド」は、主力のドリンクだけでなくソフトカプセルやゼリータイプを含む豊富な商品ラインナップを有しており、多くの方々にご愛用いただいております。

イミダペプチドは、数千キロも飛び続ける渡り鳥の持続力の鍵であり、疲労プロジェクトにおいて効果が認められた抗疲労成分6種類の中でも特に顕著な効果が確認された成分です。疲労は、筋肉や脳の細胞がエネルギーを産生する際に消費した酸素から発生した活性酸素が脳神経細胞や

筋細胞を傷つけ、機能を低下させることによりパフォーマンスが低下した状態であり、その情報が脳の疲労中枢に伝わることで疲労感を感じるものと考えられます。また、活性酸素が引き起こす脳神経細胞や筋細胞の損傷が、疲労からの回復を遅らせる原因となると考えられます。イミダペプチドは、イミダゾール基により強い抗酸化作用があり、最も酷使する部位にピンポイントで働いて、活性酸素による脳神経細胞や筋細胞の損傷を抑制し、疲労からの回復を早める効果を有します。

「ビフィズスロンガム+テアニン」を発売

日本予防医薬は、2014年10月、粉末タイプの健康補助食品「ビフィズスロンガム+テアニン」を発売しました。ビフィズス菌は腸内の善玉菌の代表であり、本製品は酸に強く生きて腸まで届くロンガム種のビフィズス菌を1包に500億個配合しています。また、テアニンは緑茶にも含まれるリラックス成分であり、ストレスの軽減、自律神経の緊張緩和の効果を有することが知られています。

腸内のビフィズス菌は加齢とストレスによって減少するものであり、善玉菌の減少は有害物質を生成する悪玉菌の増加の原因になるため、腸内の善玉菌の数を保つことが健康維持のためには重要と言えます。また、腸は自律神経とつながりがあり、腸内環境が乱れると自律神経のバランスが崩れ、疲労の原因にもなります。

本製品は、腸内環境を整えることにより健康維持、疲労回復に効果があり、「イミダペプチド」との相乗効果も期待できます。



「緑林の香り」が健康科学ビジネス ベストセレクションズに入選

日本予防医薬が販売する疲労回復に役立つ芳香剤「緑林の香り」は、2014年12月10日に開催された「健康科学ビジネス創造フォーラム2014」において、「2014年 健康科学ビジネスベストセレクションズ」に入選しました。「緑林の香り」は、当社グループの特許取得成分である「みどりの香り(青葉アルコール=シス-3-ヘキセノール)」を配合しています。

健康科学ビジネスベストセレクションズとは、関西地域の産官学医の連携により設立された健康科学ビジネス推進機構が、安全・安心な健康関連製品やサービスの普及、健全な健康関連産業の振興を目的として、健康的な暮らしを支援するエビデンスに基づいた先進的な商品やサービス等を積極的に評価、紹介することにより、健康関連産業のポテンシャルを示し、アピールする取り組みです。この度の入選は、「緑林の香り」が癒し効果を狙った製品であり市場性が高いこと、人による科学的実証試験で効果検証を行っており、高いレベルでのエビデンスを提供していることが評価されました。



当第2四半期の業績について ご説明ください。

当第2四半期の連結売上高は、残念ながら業績予想は未達となりましたが、前年同期比で約16%の増収となりました。この要因は、健康補助食品事業において引き続き



代表取締役社長

小池 真也

「イミダペプチド」の販売が拡大したこと、化粧品事業において特に海外部門の売上が伸長したことです。

利益に関しては、健康補助食品事業において疲労回復ニーズが高い夏場に前年同期を大きく上回る広告宣伝費を集中的に投下したことにより、計画上も減益の見通しでしたが、天候不順の影響もあり新規顧客の獲得が思うように伸びず先行費用の回収がさらに遅れることとなりましたため、前年同期比で大幅な減益となり、また、業績予想も未達となりました。

利益につきましては大幅な減益となりましたが、売上の減少によるものではなく費用投下によるものでありますので、業績拡大のトレンドは変わっていないと考えております。通期では、評価試験事業や化粧品事業が上振れする見通しでもあり、業績予想を達成できるように運営してまいります。

足元の事業の状況について、どのよう にお考えでしょうか。

当第2四半期の健康補助食品事業の販売では、夏場に行った広告宣伝費の集中投下が、天候不順の影響もあり

結果的に広告活動の効率を低下させた形となりましたが、秋以降は投下した広告宣伝費に対して想定どおりの新規顧客の獲得ができていますので、頭打ちになったわけではなく、引き続き拡大が期待できると考えております。

化粧品事業については、国内のエステやアジア市場向けの卸売の伸びが牽引し、売上高が増加傾向にあります。

評価試験事業については、食品等の新たな機能性表示制度の施行を見据えた試験の依頼も出てきており、受注が底打ちした感があります。一方、医薬臨床研究支援事業については、引き続き需要が旺盛であり引き合いは活発ですが、事業規模の一層の拡大には当社グループの供給能力の拡充が課題になると考えております。

ヘルスケアサポート事業については、政府の「日本再興戦略」において全ての健保組合に対して「データヘルス計画」の策定等が求められたこともあり様々な取り組みが広がりを見せつつあるなか、新規契約の獲得が順調に推移しています。

当面の経営課題について ご説明ください。

当社グループは、新たな収益の柱となる事業を育てながら業績の回復を図り、数期にわたり赤字決算が続いた後、前々期、前期と黒字決算を計上することができました。当期も黒字決算の見通しではありますが、事業規模に比べて利益が少額のため、業績の安定にはまだ至っていません。

当面の課題としては、売上高が増加傾向にある健康補助食品事業、化粧品事業において現状の販売施策をさらに推し進め、事業規模の一層の拡大を図ります。また、当第2四半期に費用が計画を超過した医薬臨床研究支援事業においては、効率性の高い事業体制の整備等を進め、利益率の改善を図ります。

安定的な業績が計上できる状況を早期に実現し、株主様への利益還元を実施したいと考えております。引き続き私が先頭に立ち、役職員が一丸となって事業拡大に努めてまいりますので、株主様におかれては今後ともご支援を賜りたくお願い申し上げます。

グループ・セグメント概況

科学的根拠

“エビデンス”で暮らし、医療に貢献

当社グループは、大学発のバイオマーカー技術に基づく「エビデンス」の構築および活用に強みを有しており、国民の健康の維持および増進ならびに医療資源の効率的活用等に資する様々なサービスや商品を開発し、提供しています。



株式会社
総合医科学研究所



株式会社ビービー
ラボラトリーズ

evilabo

株式会社エビデンスラボ



株式会社
総合医研ホールディングス

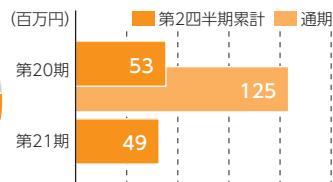
生体評価システム事業



売上高 **322** 百万円 (前年同期比3.4%増)

評価試験事業、医薬臨床研究支援事業ともに概ね前年同期と同程度の売上高となりました。評価試験事業の受注が回復傾向にあり、同事業の受注高は前年同期比271.6%増、受注残高は前年同期比500.2%減となりました。

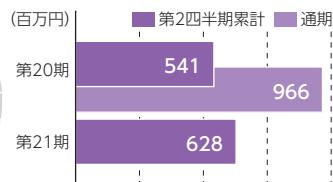
ヘルスケアサポート事業



売上高 **49** 百万円 (前年同期比7.9%減)

売上高は概ね前年同期程度となりましたが、利益率の高い糖尿病重症化予防サービスの売上が減少したことを主因として前年同期比で減益となりました。

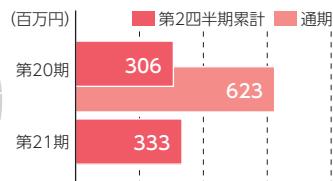
健康補助食品事業



売上高 **628** 百万円 (前年同期比15.9%増)

疲労回復ニーズの高い夏場を中心として積極的に「イミダペプチド」の広告宣伝活動を行った結果、前年同期比で増収となりましたが、広告宣伝費等が先行投資となり減益となりました。

化粧品事業



売上高 **333** 百万円 (前年同期比8.6%増)

卸売部門において大口の新規顧客の獲得や海外向け販売の拡大等により売上高が増加したこと等から、前年同期比で増収および増益となりました。

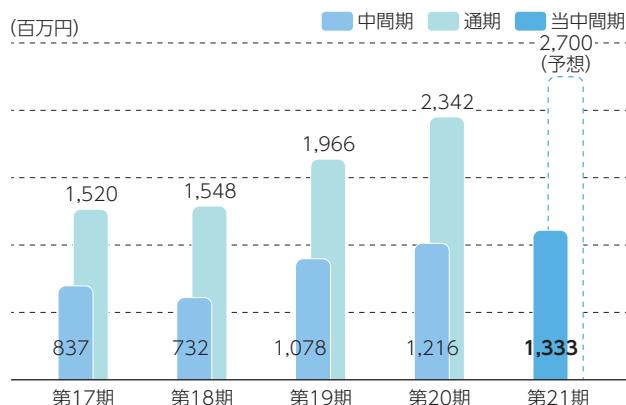
マーケティング事業

当第2四半期、前年同期ともに、売上はありませんでした。

財務ハイライト

売上高

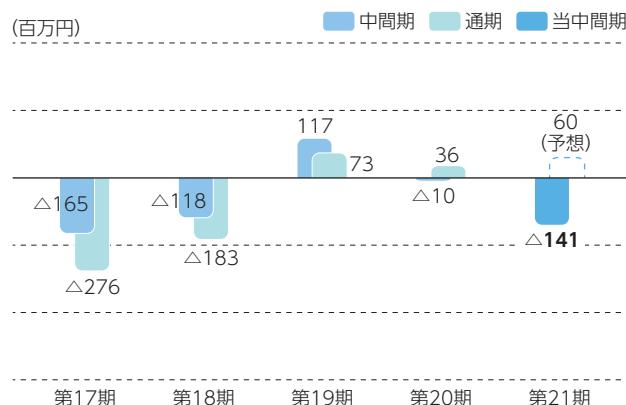
13億33百万円



疲労回復ニーズの高い夏場に「イミダペプチド」の広告宣伝活動を積極的に実施したことにより健康補助食品の売上が伸びたことを主因として、前年同期比で増収となりました。

経常利益又は経常損失

△1億41百万円



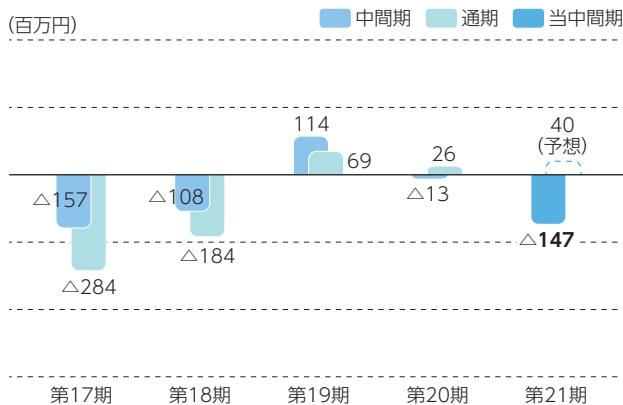
健康補助食品事業において広告宣伝費等の費用が増加したこと、医薬臨床研究支援事業において売上原価が増加したこと等から、前年同期比で減益となりました。

○キャッシュ・フロー指標

	第20期 第2四半期 連結累計期間	第20期	第21期 第2四半期 連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△146,033	△65,191	△268,035
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△200,180	△210,170	△28,573
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	—	—	—
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,735,015	1,805,866	1,509,256

四半期(当期)純利益又は純損失

△1億47百万円

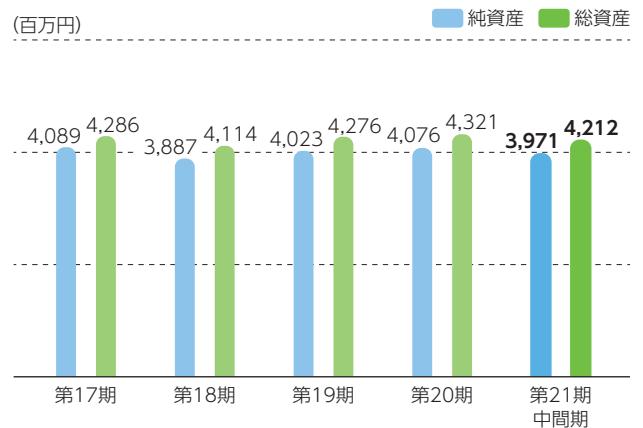


経常利益と同様の要因により、前年同期比で減益となりました。

純資産・総資産

純資産 39億71百万円

総資産 42億12百万円



総資産は現金及び預金の減少等により減少しました。純資産は四半期純損失の計上等により減少しました。

○1株当たり指標ほか

	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期 第2四半期 連結累計期間
1株当たり四半期(当期)純利益又は純損失(円)	△1,092.46	△7.06	2.66	0.99	△5.64
	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期 第2四半期
自己資本比率(%)	95.0	94.1	93.9	94.3	94.3

※当社は平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
そのため、第18期と第19期に関しては、第18期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり情報を掲載しております。

株式会社トランスアジアとの 資本業務提携を締結

当社は、2014年9月、アジア地域への進出支援等を事業とする株式会社トランスアジア(<http://trans-asia.jp/>)との間で資本業務提携を締結しました。

トランスアジア社は、2014年12月より、アリババ・グループが提供する個人消費者向けオンラインショッピングサービス「天猫(Tモール)」内の「国際サービス」にて、化粧品および健康補助食品のECショップ「Aim Beauty(エイム・ビューティ)」をオープンし、当社グループの化粧品会社である株式会社ビービーラボラトリーズの商品の取り扱いを開始しました。また、同月、トランスアジア社と共同事業を行う東虹移動傳媒技術有限公司(中国広東省広州市)が配信する「天猫(Tモール)」のモバ

イル版アプリのトップページの「特集コンテンツ」において、ビービーラボラトリーズの商品が紹介されました。東虹移動傳媒技術有限公司はアリババ・グループのパートナー企業であり、トランスアジア社は、同社との共同事業において日本製の化粧品および健康補助食品にかかるゲートウェイ(ECショップにつながる入口)の独占権を取得しています。

当社グループでは、本提携に基づき、化粧品事業および健康補助食品事業において、「天猫(Tモール)国際」への出店を通じた中国市場での販売を行うほか、中国をはじめとするアジア市場における新たな販路や販売地域の開拓等を推進する方針です。

○「天猫(Tモール)」モバイル版アプリ [トップページから最短で購入ページへ]



会社概要

商号	株式会社総医研ホールディングス (英文社名: Soiken Holdings Inc.)
本社	〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1丁目4番2号 千里ライフサイエンスセンター13階
設立	1994年7月26日
資本金	1,836百万円 (2014年12月31日現在)

役員一覧 (2014年12月31日現在)

代表取締役社長	小池 眞也
取締役	梶本 修身
取締役	田部 修
取締役	杉野 友啓
監査役	林 一弘 (常勤)
監査役	細川 明子
監査役	松井 良太

株式の状況 (2014年12月31日現在)

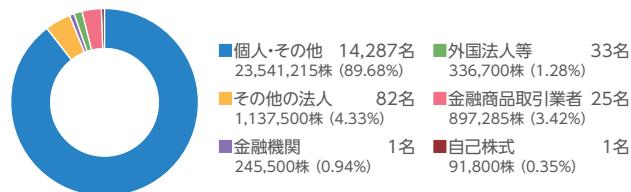
発行可能株式総数	86,396,800株
発行済株式の総数	26,250,000株
自己株式	91,800株
株主数	14,429名

大株主の状況 (2014年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
梶本 修身	4,426,800	16.8
梶本 智子	2,798,000	10.6
梶本 佳孝	1,072,400	4.0
(株)GMS	893,600	3.4
井上 昌治	450,000	1.7
梶本 さゆり	332,000	1.2
梶本 真里	332,000	1.2
(株)SBI証券	289,800	1.1
金岡 義美	274,700	1.0
五十嵐 聖一	261,400	0.9

株式分布状況 (2014年12月31日現在)

○所有者別



○所有株式数別



株主メモ

事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会 9月中
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年 6月30日
中間配当 毎年12月31日
公告掲載方法 電子公告
(公告掲載URL <http://www.soiken.com/>)
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

特別口座管理機関連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777(フリーダイヤル)

株主優待のご案内

当社では、株主様からの日頃のご支援に感謝するとともに、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ること、および当社グループの事業へのご理解を賜ることを目的として、株主優待制度を実施しております。

年1回(9月末頃)、毎年6月30日の株主名簿に記載または記録された株主様を対象として、株式会社ビービーラボラトリーズのお買物優待券および日本予防医薬株式会社のお買物優待券を贈呈いたします。

(株)ビービーラボラトリーズのお買物優待券

優待内容	ご所有株式数 100株以上499株以下	20%割引券 1枚
	ご所有株式数 500株以上	40%割引券 1枚
ご利用申込期限	毎年12月31日まで	
ご利用対象商品	原則として全商品 ^{*1}	
ご利用上限金額	ご所有株式数 100株以上499株以下	お買物合計金額 21,600円 ^{*2} まで
	ご所有株式数 500株以上	お買物合計金額 32,400円 ^{*2} まで

(ご注意事項)

- ※1 雑貨やキャンペーン商品等、一部の商品は割引対象外となります。
- ※2 ご利用上限金額は、割引適用前のお買物合計金額を基準として適用します。
- ※3 お買物優待券は専用のお申込ハガキを兼ねたものとなっており、当該ハガキ以外の方法によるお申込み、またはご利用期限(消印有効)の後のお申込みは、お受け付けできません。
- ※4 代金のお支払方法はクレジットカードまたは代金引換のみとなります。
- ※5 商品の送料およびハガキの郵送料は当社側が負担いたします。

日本予防医薬(株)のお買物優待券

ご所有株式数100株以上の株主様を対象として、次の内容のお買物優待券を贈呈いたします。

イミダペプチド(ドリンク)・ 同うめ風味(ドリンク)各30本入	定 価 1個 7,500円(税込)を 株主優待価格 1個 6,000円(税込)
イミダペプチドソフトカプセル 120粒入	定 価 1個 7,500円(税込)を 株主優待価格 1個 6,000円(税込)
イミダペプチドプレミアム 90粒入	定 価 1個 9,450円(税込)を 株主優待価格 1個 7,950円(税込)

(ご注意事項)

- ※1 お買物優待券は専用の申込書を兼ねた形となっており、当該申込書の郵送以外の方法によるお申込みはお受け付けできません。なお、ご利用申込期限はありません。
- ※2 お申込みは合計で4個までとなります。
- ※3 個数にかかわらず、商品の送料として、全国一律300円を購入者にご負担いただきます。なお、申込書の郵送料は当社側が負担いたします。